

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

国語 科目 言語文化

教科： 国語

科目： 言語文化

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（12組： ）（34組： ）（56組： ）（78組： ）

使用教科書：（大修館書店 新編 言語文化 改訂版 ）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読						
A 「いろは歌」 【知識及び技能】 ・歴史的仮名遣いの本文を正しく読む。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文の内容を捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に音読に取り組み、古文特有のリズムに慣れる。	・歴史的仮名遣い ・本文の読解 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社）	○		○		・歴史的仮名遣いを正確に読むことができる。 ・単語や意味の区切りを理解している。 ・現代語訳で内容を理解したうえで、音読を行っている。 ・古文に親しもうとしている。	○	○	○	5
B 「児のそら寝」宇治拾遺物語 【知識及び技能】 ・歴史的仮名遣いを理解したうえで、本文を正確に読むことができる。 ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・傍訳などを参考にしながら内容を読み取っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。 ・興味を持って古文の学習に取り組む。	・人物像をとらえる。 ・本文の読解 ・呼応の副詞「な～そ」【禁止】 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○		・歴史的仮名遣いを正確に読むことができる。 ・品詞や文節について理解し、重要古語の意味を把握している。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 ・笑話としてのおもしろさを理解している。 ・古文に親しもうとしている。	○	○	○	7
定期考査							○	○		1
C 「仁和寺にある法師」徒然草 【知識及び技能】 ・動詞の活用について理解している。 ・係り結びの法則について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・随筆というジャンルを踏まえ、文章に現れた作者のものの見方、感じ方、考え方を正しく解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・仁和寺の法師の参拝に対する思いに興味をもち、本文の内容について自分の考えを深めようとしている。	・動詞の活用 ・係り結びの法則 ・本文の読解 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末		○	○		・動詞の活用について理解できる。 ・係り結びの法則について理解できる。 ・具体的な出来事とそこから導き出された作者のものの見方、感じ方、考え方を正しく解釈することができる。 ・随筆を読み、人間や社会のありようについて自分に引き付けて考えをまとめることができる。	○	○	○	6
D 「うつくしきもの」枕草子 【知識及び技能】 ・必要な重要古語や動詞について十分に理解し、読解に活用している。 ・係り結びの法則について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・随筆というジャンルと「うつくし」の意味をふまえ、文章の内容を叙述をもとに正しくとらえている。 ・「うつくしきもの」の特徴や作者のものの見方などを正しく解釈している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品や作者に興味をもち、作者のものの見方や感じ方について自分と比べながら考えたりして、自分の考えをまとめようとしている。	・動詞の活用 ・「うつくし」 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○		・動詞の活用について、判断できる。 ・各段落において、何が「うつくしき」ものか捉えることができる。 ・作者が「うつくし」と感じているものをとらえ、その特徴を考えようとしている。 ・「うつくしきもの」について、自分の感覚との共通点・相違点を考え、作者の感性を理解することができる。 ・類聚的章段について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	6
定期考査							○	○		1

1
学
期

2 学 期	D『羅生門』芥川龍之介 【知識及び技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使う。 ・読書の意義と効用について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとする態度を養う。 ・古典作品への興味関心をもつ。	・漢字の読み書き ・登場人物の心情をとらえる ・本文の読解 ・『今昔物語集』と比較 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 ・語り手に注目しつつ、作品の構成や人物の心情を捉えている。 ・『今昔物語集』との比べ読みを通して、物語の普遍性・作者の表現の工夫を味わおうとしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
	C「芥川」伊勢物語 【知識及び技能】 ・和歌の中で比喩として使われている言葉を見つけ、本文への理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・反実仮想の助動詞「まし」の訳し方を理解し、和歌の内容を読み取る。 ・「鬼」の正体について、本文をもとに考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・男が和歌にどのような気持ちを込めて詠んだのか、自分に当てはめながら考えを深めようとする。	・反実仮想の助動詞「まし」 ・呼応の副詞 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○	・平安時代における和歌の役割を理解している。 ・和歌の中で「露」が「命」「はかなさ」の比喩として使われていることを読み取り、本文への理解を深めている。 ・反実仮想の助動詞「まし」と、呼応の副詞を理解している。 ・和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考えている。 ・「鬼」の正体について興味をもち、自ら調べたりして考察を深めようとしている。	○	○	○	6
D「門出」土佐日記 【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景やほかの作品などとの関係をふまえ、内容の解釈を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、文章の展開や和歌の内容、登場人物の心情を読み取るようとしている。	・動詞の活用 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○	・作者や成立背景などを正確に把握し、文学史的な意義について興味をもっている。 ・当時の旅や習俗について理解している。 ・本文の構成を把握し、内容を正確に理解している。 ・女性に仮託した作者の創作意図を読み取っている。 ・作者の観察眼や、機知に富む文章表現の効果を理解している。 ・日記文学に興味をもち、他の作品の旅と比較して読もうとしている。	○	○	○	6	
定期考査							○	○		1
3 学 期	G「守株」韓非子 【知識及び技能】 ・本文を音読し、訓読のリズムに慣れる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・話の展開を理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・故事成語が身の回りで使われていることに興味をもち、日常で使う言葉を見つめなおそうとしている。	・本文の読解 ・返り点や置き字等漢文の基礎 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○	・故事成語の成り立ちと日本で用いられてきた文化的な背景について、身近な例を挙げながら考えを深められる。 ・本文全体を正確に理解し、込められた寓意について三塚らの考えを深めている。 ・故事が日本の言語文化に与えた影響について考えようとしている。	○	○	○	9
	H「五十歩百歩」孟子 【知識及び技能】 ・本文を音読し、訓読のリズムに慣れる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・話の展開を理解し、作者の伝えたいことを理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・漢文に興味をもち、故事成語が現在の生活にも根づいていることを自身の経験に照らし合わせて考え、ほかの例を探したり調べたりしようとしている。	・本文の読解 ・返り点や置き字等漢文の基礎 ・言語文化（大修館書店） ・新訂総合国語便覧（第一学習社） ・一人1台端末	○	○	○	・書き下し文を参考にして本文の訓読のしかたを理解している。 ・本文の内容をふまえ、現在「五十歩百歩」という言葉がどのような意味で使われているか理解している。 ・寓話の内容を正確に理解し、孟子の伝えたい内容を的確に読み取っている。 ・漢文や故事成語に興味をもち、その中で現代に通ずるほかの例を探したり調べたりしようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
合計										70